



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



自宅の庭に設置した水力発電装置で電球をともす中嶋さん

自宅の庭に水力発電装置を製作！

ものづくりの魅力に引き込まれた元気人

ものづくりの魅力に引き込まれ、飽くなき挑戦を続ける元気な男性を紹介します。

中嶋久幸さん(70歳)日高町羽尻

今夏の電力不足が懸念される中、農業を営む中嶋久幸さんは、少しでも節電に約立ようと、小型の水力発電装置を製作。最大3キロワットの発電が可能になりました。

豊富な水を利用して…

中嶋さんは、木工や溶接が趣味で、会社勤めをしているところから、機会があればものづくりに取り組んでいました。水力発電装置を作るきっかけは昨年10月、テレビで徳島

県三好市の向井さんが、自力で水力発電装置を作ったのを知ったこと。中嶋さんは冬場、穴を開けたパイプを自宅前の道に置き、裏山から流れ出る水を利用して消雪していました。以前から、この水が夏場にも使えないかと考えていたため「これだ」と直感。「すぐテレビ局に問い合わせ向井さんを探し、2月に会いに行きました」と話す中嶋さん。行動派です。

「どうせ作るならできるだけ手作り」という中嶋さんは、買えば150万円ほどで手に入る発電装置を自分で作ることにしました。向井さんに発電装置の作り方を教わり

ながら、中古の発電機を探しましたがなかなか手に入らず、向井さんに相談して故障の少ないイカ釣り漁船用の発電機を譲ってもらいました。

約4カ月かけて完成

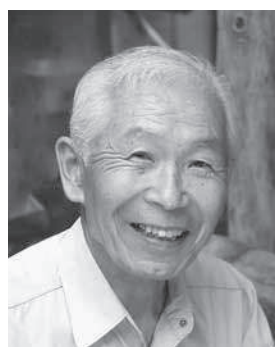
それからは毎晩遅くまで作業に没頭しました。自宅庭の池の横に基礎を作り、直径約50センチの水車を取り付けました。裏山から直径10センチのパイプを150メートル引いて水を流し、タービンを回して発電させる仕組み。「向井さんからは水を取り込む高低差が15メートル以上必要と聞いていましたが、わが家は11メートルしかありませんでした。この高低差で発電させるためには、水車に当てる水圧を上げる必要があります、パイプ先端部の太さを変えたり、水車の羽の角度を変えたり、1ミリ単位でいろいろと試してみました」と苦笑いします。

試行錯誤の末、5月に完成。「初めて電球をつないで明かりがついたときは感動しました。今は満足感で一杯です」と中嶋さん。当初、60ボルトだった電力量も今では100ボルトになり、60ワットの電

球なら50個点灯することができそうです。「扇風機やクーラーに使えるようにして節電につながりたい」と話しています。

完成の喜び ものづくり

中嶋さんは2年前、裏山から切り出したケヤキの幹を削り、巨大木魚を製作。日高町荒川の隆国寺で使用され、その大きさと、独特の重低音が訪れる人の関心を集めています。また翌年には、ケヤキで白ときねを作り、近くの三方保育園に寄付しました。さらに、そのケヤキでセンサー仕掛けのさい銭箱を製作。さい銭を入れると録音したお経が12秒間流れるという国内では他に類を見ないもの。「多くの反響がありました。ものづくりはできたときの喜び、満足感がたまりません。また何かにチャレンジしたくなりま



▲いつも笑顔の中嶋さん

港中学校(豊岡)

案内者 宮嶋美侑さん(3年1組)



港中学校は、在校生が87人で、地域の方々と密接に関わり合っている学校です。

同校生徒会長の宮嶋美侑さんは、女子ソフトテニス部に所属し、キャプテンとして部をまとめています。雨の日の練習では、女子ソフトテニス部



の掛け声が校舎内に響き渡ります。宮嶋さんは「みんなの力で団体戦に勝ったときはうれしい」と話します。

今回、「学校では友達と話しているときに一番楽しい」と笑顔で話す宮嶋さんに港中学校を紹介してもらいました。

港中学校の特徴ある取り組みを紹介します。

まず、「浜清掃」です。毎年、港東・港西小学校、港東・港西幼稚園、高年クラブ、保護者、地域の方と一緒に気比の浜と田結の浜を清掃しています。今年も、6月30日に実施し、約550人の方が参加しました。

特に、昨年は「浜清掃」のことをもっと広めたいという思いから、生徒会で円山川の上流に位置する朝来市と養父市に協力をお願いしました。

次に、「信ちゃん販売」です。無人購買部として、古くから港中学校に設置されています。みなな、ノートや鉛筆などをここで買っています。無人なのに物の売りがきちんと成立していることは素晴らしいことだと思います。

「あいさつ立番」は、積極的

にあいさつを行い、部活ごとにあいさつランキングをもうけていこうと考えています。

「プルタブ・ペットボトルキャップ収集」は、前期・後期で1〜2回、持参する期間を決めて集め、毎年どの学年が一番多く集めるかを競います。



集めたものは団体に送り、車いすの購入に役立っています。

また、「ノーチャイム」(授業と授業の間のチャイムを鳴らさない取組み)は、港地区では小学校時代から行われているものなので、チャイムが鳴らなくても自然と授業と休憩時間の区切りがつけられるようになりました。

これらの取組みは、全校生徒が積極的に関わり、取り組んでいます。特に3年生は、取組みや行事に参加することが最後の年になるので、全ての行事を成功させたいと思ひ、頑張っています。

笑顔の輪

大きな声で歌うことが元気の源!! 童謡をうたう会(豊岡)

ピアノの旋律に合わせて、楽しそうな歌声が聞こえます。童謡をうたう会は、港地区

の歌好きの仲間が集まり、月に1回、港地区公民館で童謡の練習をしています。現在のメンバーは28人。

この会の設立のきっかけは、ある一言から。代表を務める岩崎謙司さんが「歌の喫茶などがあればいいなあ」と何気に言ったところ、当時の公民館で歌の講座として取り組んでもらったとのこと。その後、「自ら計画を立てて活動しよう」とサークルとして自立しました。

岩崎さんは「童謡はみんなが知っているもので、自らも歌いやすい。上手、下手じゃなく、大きな声で楽しく歌うこと。これが元



▲皆さんとても元気です

「場の数を踏むことも大事」と、うたのひろばや地区の文化祭にも出演しています。今年6月には、初の試みとして、デイサービスに押しかけて歌ってみました。

「会員が増えるのが難しいかも」と苦笑い。いつまでも元気な歌声が響き渡ることでしょう。